

大津市立保育園 保育所評価シート 【 膳所保育園 】

- 「福祉サービス第三者評価基準」の「評価の着眼点」・「評価基準の考え方と評価の留意点」を参考に評価を行ってください。
- 保育記録や保育者による自己評価の結果を踏まえ、全職員による共通理解の下で評価を行ってください。
- この評価作業を通して、自園の保育で大切にしていることや目指していること、良さ、特色等について、職員間で共通理解を図ります。
- 現状と課題を踏まえて今後どのような保育を目指すのか、改善と充実に向けた見通しや具体的方策・役割分担・職員体制を確認します。
- 評価の方法
 - ①評価の着眼点について、チェック欄のドロップダウンから●・✖のいずれかを選択してください。
 - ②自己評価結果は、評価の着眼点について●が100%でa、50%以上でb、50%未満はcを目安に評価ください。
 - ③【判断した理由・特記事項等】を「【判断した理由・特記事項等】欄」にご記入ください。

I 保育の基本方針

I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 保育理念、基本方針が確立・周知されている。	自己評価結果	● ✖		評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
1	a	●	ア	園の保育理念や基本方針は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法の精神を踏襲している。
【判断した理由・特記事項等】 ・年度当初に保育理念や保育の中で大切にすることや育てほしい子どもの姿を検討しながら、職員会議や保育会議で確認し、職員の共通理解や周知を行っている。 ・園のテーマを玄関に掲示し、行事の際にはテーマに基づいた保育の取り組みを知らせている。園発行文書、ホームページ、入園のしおりで周知し、新入児説明会や継続児説明会等でも知らせている。		●	イ	園の保育理念や基本方針は、保育所保育指針の内容を理解し、それに準拠している。
			ウ	園の保育理念や基本方針は、大津の保育理念や基本方針に基づいている。
			エ	園の保育理念や基本方針を園の概要や発行文書、ホームページ等に記載し、周知している。
			オ	園の保育理念や基本方針は、会議や学習会での説明・協議等を通じて、職員への周知が図られている。
			カ	入園のしおりや説明会資料等を工夫し、園の保育理念や基本方針について保護者等にわかりやすく説明する機会を設け、周知を図っている。
			キ	園の保育理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的に周知に努めている。

II 組織の運営管理

II-1 各職員の役割と責任の明確性

II-1-(1) 職員の役割と責任が明確になっている。	自己評価結果	● ✖		評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
2	a	●	ア	保育の目標が達成されるよう、職務分掌(各人が行うべき役割・責任の範囲)が明確になっており、文書化するとともに、会議において職員に表明し周知を図っている。
【判断した理由・特記事項等】 ・園の保育目標や組織方針に基づき職員の役割を事務分掌表に明記し人事評価面談等で確認している。 ・各会議等や日常の中で職員一人一人が自分の意見を出しやすい雰囲気があり、思いや悩みを共有し改善策や手段を検討したことを集約し共通認識を図ることができている。 ・有事には上司に迅速に報告し危機管理マニュアルに基づき解決に向かって職員体制を整えている。		●	イ	職員一人一人が、園の保育理念や基本方針を正しく理解し、同じ方向性を目指して、職員が協力して取り組んでいる。
			ウ	定期的かつ必要に応じて保育についての会議を開催し、職員間のコミュニケーションが活発に行われている。
			エ	職員一人一人の意見が尊重され、気づいたことや意見を率直に出し合える職場風土がつけられている。
			オ	有事(災害、事故等)の際には、迅速に上司への報告がなされ、園全体が組織的に解決に向かって協力し合える。

II-2 法令遵守

II-2-(1) 職員が法令を遵守している。	自己評価結果	● ✖		評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
3	a	●	ア	保育を実施するにあたって遵守すべき法令等を十分に理解している。
【判断した理由・特記事項等】 ・園長会の報告を受けたり公務員倫理や服務、関係法令等の確認・読み合わせを行っている。 ・園長によるコンプライアンス面談を実施し、様々なハラスメントについて意識している。		●	イ	遵守すべき関係法令について習熟するための研修に参加し、かつ園内での学習会を開催し、職員の法令等の理解に努めている。
			ウ	環境への配慮等を含む幅広い分野について、遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。
			エ	有事(災害、事故等)の園長の役割と責任について、不在時の代行者やその分掌を明確にしている。

II-3 人事管理

II-3-(1) 職員の就業状況に配慮がなされている。	自己評価結果	● ✖		評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
4	b	●	ア	職員の就業状況や意向の把握等に基づく労務管理を適切に行っている。
【判断した理由・特記事項等】 ・職員の就業意向に合わせた働き方を互いに認め協力し合いながら職務を遂行している。また、学びの重要性を理解し勤務後のブロックの職員学習会等に参加しているが、子育て中の職員は業務と家庭との両立に難しさを感じている。 ・常勤者の事務的な仕事をボードに記入することで可視化し職員間で共有している。勤務時間内に事務時間が確保できるよう職員間で配慮し合っている。しかし、業務量が多く業務に追われるのも事実である。		✖	イ	ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。
			ウ	時間外勤務をする場合は、本市のルールに基づいて行われている。
			エ	定期的に園長と職員の個別面談の機会を設け、職員の悩み・相談窓口を組織内に設置するなど、職員が相談しやすい工夫をしている。
			オ	職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容が職員に周知されている。

II-4 人材育成

II-4-(1) 職員の質の向上に向けた体制が作られている。		自己評価結果	● ×	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
5	① 職員一人一人に学習・研修の機会が計画的に確保されている。	a	●	ア 職員一人一人が自身の専門性を高めるための目標をもち、計画的に研修を受講できるよう、コミュニケーションの下、勤務体制や人員配置を工夫している。
【判断した理由・特記事項等】 ・園内における自身の立場を自覚し、学びたい研修を選択し積極的な研修参加につながっている。受講した研修について会議で報告する場を設け、職員が研修の学びを共有しスキルアップできるようにしている。			●	イ 大津市研修計画や外部研修の機会を利用し、階層別・職種別・テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に適した研修機会を確保している。
			●	ウ 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTを適宜行っている。
			●	エ 研修で得た知識や技術を他の職員と共有する場を設け、保育所全体の保育実践の質や専門性の向上につなげていくよう努めている。
			●	オ 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。
II-4-(2) 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		自己評価結果	● ×	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
6	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	●	ア 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化し、実行している。
【判断した理由・特記事項等】 ・実習生の積極的な受け入れと「保育実習の手引き」をもとに丁寧にオリエンテーションを行い、保育実習の目的や内容の確認を行っている。実習期間中は反省会を行い、実習生の保育の振り返りや実習に対する助言や指導、質疑応答など担任だけでなく園長や代表保育士も一緒に実習生の指導にあたっている。 ・保護者には園だよりで実習生の受け入れについて周知している。 ・実習生の実習に向かう姿勢だけでなく、体調等も学校と連絡を取り合い、万全の状態実習に臨めるようにしている。			●	イ 実習生が園児と関わる際の指導の手順や安全管理について、職員間で共通理解している。
			●	ウ 実習生を指導する職員に対する指導・支援体制を構築している。
			●	エ 実習生の受け入れ状況について、事前に保護者へ情報提供している。
			●	オ 実習については、学校側と連携して実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持している。

II-5 保育運営の透明性の確保

II-5-(1) 保育運営の透明性を確保するための取組が行われている。		自己評価結果	● ×	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
7	① 保育運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	●	ア ホームページ等の活用により、園の保育理念や基本方針、保育の取組内容等を適切に公開している。
【判断した理由・特記事項等】 ・ホームページに保育の方針や取り組み内容をあげ発信している。 ・意見や苦情があった場合は、園協力者会議や第三者委員会に報告している。 ・子育て支援事業については、地域におたよりや『おおつ子育てアプリとも育』等で周知し子育てニーズに合わせて取り組んでいる。地域の民生委員児童委員や膳所学区社会福祉協議会の方に来園していただき園児と交流していただいている。 ・園から地域の秋祭りに参加したことで、多くの保護者が地域行事に参加して下さった。			●	イ 保育所における、地域の福祉向上のための取組の実施状況をはじめ、自己評価結果及び第三者評価の受審結果、並びに苦情・相談の体制及び内容について、適切に公表している。
			●	ウ 自己評価や第三者評価、苦情・相談等による課題や指導、指摘事項に基づく改善・対応の状況について公表している。
			●	エ 園の保育理念や基本方針、保育の取組内容、園の課題等について、協力者会議等機会を活用し、社会・地域に対して保育所の存在意義や役割を明示・説明するよう努めている。
			●	オ すべての子どもの健やかな育ちの実現を目的に、地域回覧や行事への参加呼びかけ等、地域の子育て家庭へも公開・情報提供し、地域に開かれた園づくりを行っている。
8	② 公正かつ透明性の高い適正な運営のための取組が行われている。	a	●	ア 保育所における事務に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員と認識共有している。
【判断した理由・特記事項等】 ・市の内部監査や協力者会議でいただいた意見は職員間で共有し、改善に向けて迅速に対応している。 ・保育中のインシデントや事故など事案が発生した場合はすぐに統括課等に連絡・報告し、迅速・適切な対応に努めている。			●	イ 保育所における事務について自主監査を実施するなど、公正な運営に努めている。
			●	ウ 定期監査等内部監査の結果や統括課による指導や指摘事項に基づいて、迅速に改善・対応を行っている。
			●	エ 適正な保育運営のために、外部監査、協力者会議、第三者評価の活用等により、保育運営に関する外部の専門家によるチェックを行っている。
			●	オ 懸案事項について早期発見し、上司及び統括課へ報告・相談を行い、適切な初期対応で未然防止に努めている。

II-6 地域との交流・連携

II-6-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		自己評価結果	● ×	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
9	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	●	ア 地域との関わり方について基本姿勢を明確にし、地域の行事や活動に参加する際、子どもの個別状況に配慮しつつ、職員が支援を行う体制を整えている。
【判断した理由・特記事項等】 ・近隣のデイサービスセンターの方や滋賀朝鮮学園幼稚園との交流を行い、その様子を保護者にもおたよりや掲示板にて知らせている。 ・膳所学区の文化祭に園児の作品を出展するなど地域に根ざした園づくりを進めている。また、運動会では保護者を巻き込んで膳所音頭を踊ったり、石鹿太鼓の演奏を聴く機会を設けたりと、地域の文化に触れる機会を大切にしている。 ・地域の方に園の様子を知ってもらうこと、また、子どもたちが地域の友だちを知ること、子育てひろばに参加されている親子へ5歳児が歌の披露をする取り組みを行っている。地域の方の温かい拍手をいただき5歳児の自信につながっている。			●	イ 活用できる社会資源や地域の情報を収集し、掲示板等の利用により保護者に情報を提供している。
			●	ウ 園の保育の取組や子ども理解への促進のため、地域の人々と園児が交流する機会を設けるなど、計画的に取組を行っている。
			●	エ 個々の子どもや保護者のニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。
10	② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	●	ア ボランティアの受け入れに関する基本姿勢を明確にし、ボランティアに対して、子どもとの交流を図る視点等について、丁寧な説明や支援を行っている。
【判断した理由・特記事項等】 ・大学生ボランティアを1名受け入れた。受け入れ前には、保護者に園だよりで知らせるとともに、学生にはオリエンテーションを行い個人情報保護、人権擁護、関わり方の視点等の説明を行っている。			●	イ 地域の学校教育等への協力・協働体制について、基本姿勢を明確にして行っている。
			●	ウ ボランティアの受け入れに際し、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する事項が確立しており、職員間で共有理解を図っている。(※個人情報保護、人権擁護、関わり方の視点等)
			●	エ ボランティアの受け入れ状況について、事前に保護者へ情報提供を行っている。

Ⅱ-6-(2) 関係機関との連携が確保されている。		自己 評価結果	● x	評価の着眼点 (該当する場合は□にチェック)
11	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	●	ア 関係機関・団体と定期的な連携且つ必要に応じて連絡会を行い、問題・課題の共有を図っている。
【判断した理由・特記事項等】 ・ 青少年の健やかな育成を願い活動する学区組織「膳所プリングアップ」の一員として毎月会議に出席するなど連携している。 ・ 家庭支援の必要があるケースについては、市のこども子育て安心課やすこやか相談所とも連携し対応している。			●	イ 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもとその保護者が必要とする支援ニーズに対応できる社会資源(すこやか相談所・医療機関・消防署・地域交番等)を明示したリストや資料を作成し、職員間で情報の共有化が図られている。
				ウ 子どもとその保護者のアフターケア等を含め必要に応じて適当な関係者に協力を仰ぎ、地域での支援のネットワーク化に取り組んでいる。
				エ 家庭での虐待等権利侵害が疑われる子どもへの対応について、子ども家庭相談室やすこやか相談所、児童相談所、要保護児童対策地域協議会など関係機関との連携を図っている。

Ⅲ 適切な保育の実施

Ⅲ-1 子どもの人権を尊重した保育の推進

Ⅲ-1-(1) 子どもの人権を尊重する姿勢が明示されている。		自己 評価結果	● x	評価の着眼点 (該当する場合は□にチェック)
12	① 子どもの人権を尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	●	ア 子どもの人権を尊重した保育に関する基本姿勢について、職員が理解し、保育の実施方法に反映されている。
【判断した理由・特記事項等】 ・ 園内で人権を尊重した基本姿勢について学ぶことを目的に園内研修を計画的に行い、保育の中で活かせるようにしている。 ・ CAP研修を受講し(5歳児、保護者対象)子どもたちが暴力から身を守る方法を学んだ。ブロックの職員学習会に参加し、職員が性に関する正しい知識を得、子どもたちが命の大切さや相手を思いやる心を育むための関わり方などを学び保育に活かせるようにしている。CAP研修に保護者の参加が少ないのが課題である。			●	イ 子どもの人権を尊重した保育の提供に関する「倫理綱領」について、職員が理解し、実践するための取組を行っている。
				ウ 子どもの権利や基本的人権への配慮について、組織で学習会・研修を実施している。
				エ 子どもの権利や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を行っている。
				オ 子どもたちに互いを尊重し合える心を育むための具体的な取組を行っている。
				カ ジェンダー(社会的・文化的性差)への先入観(性別役割分担意識)による固定的な対応をしないように配慮している。
				キ 子どもの人権、文化の違い、互いを尊重する心について、その保育方針等を保護者に示すとともに、保護者の理解を図る取組を行っている。
13	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a	●	ア 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等に基づき、職員が理解し、保育の実施方法に反映されている。
【判断した理由・特記事項等】 ・ 園児のシャワー環境、トイレ、着替える場所等はプライバシーを守るように工夫している。職員が子どもの人権に配慮した上で、保育の様々な場面において振り返り人権意識をもって保育している。 ・ 保護者におたより等で子どもの権利条約や保育内容について発信し、啓発している。 ・ 事案が起こった場合の対応方法(事実確認、統括課への報告、保護者への説明等)は職員間で周知している。			●	イ 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等に基づき、職員が理解し、保育の実施方法に反映されている。
				ウ 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、児童福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、利用者のプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。
				エ 一人一人の子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。
				オ 子ども・保護者にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。
			●	カ 不適切な事案が発生した場合の対応方法等について確立し、職員に周知している。

Ⅲ-2 保育に係る説明責任

Ⅲ-2-(1) 保育の提供に関する説明と同意が適切に行われている。		自己 評価結果	● x	評価の着眼点 (該当する場合は□にチェック)
14	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	●	ア 保育の理念や基本方針、保育の内容や保育所の特性等を紹介した資料を、必要に応じて提供できるよう準備している。
【判断した理由・特記事項等】 ・ 保育園の理念や基本方針、保育の内容や実践について、ホームページで誰もが閲覧することができる。 ・ 入所前見学の希望者に対応し園の概要をもとに保育内容を伝えたり、見学者の質問に丁寧に答えたり、園内の見学をして子どもたちの様子を見てもらったりして、見学者の知りたい情報を提供できるようにしている。			●	イ 保育所を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。
				ウ 保育所の利用希望者については、個別に丁寧な説明を実施している。
				エ 見学等の希望に対応している。
				オ 利用希望者に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。
15	② 保育の開始・内容の変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	●	ア 保育の開始にあたって、重要事項説明書を用いて保護者にわかりやすく説明している。
【判断した理由・特記事項等】 ・ 新入児説明会・継続児説明会を実施し重要事項説明書だけでなく入園・継続のしおり及びパワーポイントで保育内容にも触れながら詳細に説明している。 ・ 担任変更や保育室の変更が生じる場合は、文書とともに各家庭に説明を行い理解を得ている。			●	イ 保育の内容に変更が生じる際は、説明と同意にあたって、保護者等の意向に配慮し、保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。
				ウ 説明にあたっては、保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。
				エ 保育の開始時や内容に変更が生じる際には、保護者等の同意を得た上でその内容を書面で残している。
			●	オ 特に配慮が必要な保護者への説明については、ルール化され、適正な説明、運用が図られている。
16	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	●	ア 保育所等の変更にあたり、保護者の希望により、保育の継続性に配慮した手順で、引継ぎ文書等で申し送りや連携を実施している。
【判断した理由・特記事項等】 ・ 保護者の希望や相談があれば、手順を踏み、必要に応じて連携する等の対応をしている。 ・ 関係機関との連携がある場合は、保育所利用終了後の相談システム等について保護者が情報を得られるように文書とともに説明している。			●	イ 保育所の利用が終了した後も、保育所として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設け、対応している。
				ウ 保育所の利用が終了した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。

Ⅲ-3 子ども・保護者の利用者満足

Ⅲ-3-(1) 子ども・保護者の利用者満足の向上に努めている。		自己評価結果	● ×	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
17	① 子ども・保護者の利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	●	ア 日々の保育のなかで、子どもの生活と遊びが充実しているか、把握するように努めている。
【判断した理由・特記事項等】 ・年間行事の中で個別懇談やクラス懇談を位置づけて実施し、随時必要に応じて個別面談も行っている。 ・日々のこどもの姿は口頭や写真掲示で保護者と共有するとともに、保育目標や実践、振り返りをクラスだよりで知らせている。 ・保護者からのご意見や保育園評価に係るアンケートをもとに、保護者の思いを理解した上で、改善すべき点を職員間で共有し次への取り組みに活かしている。		a	●	イ 一人一人の保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っている。
			●	ウ 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。
			●	エ 保護者への個別の相談面接や日々の聴き取り、保護者懇談会、保育の取組内容や職員の対応等に関するアンケート等、適宜行っている。
			●	オ 保護者アンケートについて、把握した結果を分析・検討するための会議を開催し、その結果にもとづいて具体的な改善を行っている。
Ⅲ-3-(2) 保護者が要望・意見等を述べやすい体制が確保されている。		自己評価結果	● ×	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
18	① 保護者が要望・意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	●	ア 子どもの発達や育児等について、懇談会等の話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。
【判断した理由・特記事項等】 ・苦情対応の窓口を明示し、玄関に保護者の意見箱と用紙を設置し対応できるようにしている。 ・個別懇談の場所は、使用していない保育室や遊戯室で行っている。カーテンを引いたり、ドア付近から離れたりとプライバシーに配慮して行っている。		a	●	イ 保護者が要望したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成し、見えやすい場所に掲示している。
			●	ウ 要望しやすく、意見を述べやすいスペースの確保・声漏れへの配慮等、環境に配慮している。
			●	エ 保護者の就労等、個々の事情に配慮して、要望・意見の申出に柔軟に応じられるよう対応している。
19	② 保護者からの要望・意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	●	ア 要望や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めた本市の苦情対応マニュアルに基づき、適切に対応している。
【判断した理由・特記事項等】 ・保護者からの要望・意見等があった時は迅速に園内で情報共有と内容検討を行っている。統括課にも報告相談を行い、適切に説明・対応できるように努めている。 ・一部の職員からの挨拶がないと保護者から指摘があり、即職員間で共有し、笑顔・挨拶・声掛けを心がけるようにしている。		a	●	イ 職員は、日々の保育の提供において、保護者が要望を出しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。
			●	ウ 意見箱の設置、アンケートの実施等、保護者の意見を積極的に把握する取組を行っている。
			●	エ 職員は、把握した要望や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。
			●	オ 要望・意見等の対応内容に基づき、保育の質の向上に向けた取組を行っている。
20	③ 苦情解決の仕組みが確立しており、十分に周知・機能している。	a	●	ア 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)を整えている。
【判断した理由・特記事項等】 ・入園の際に説明会で苦情解決の仕組みや体制を知らせるとともに玄関掲示板に掲示もし保護者に周知している。 ・第三者委員、協力者合同会議等で保護者の意見や要望の内容を説明し、相談し助言をいただいている。		a	●	イ 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を保護者等に配布し説明している。
			●	ウ 意見箱の設置やアンケート(匿名)を実施するなど、保護者等が意見・苦情を表明しやすい工夫を行っている。
			●	エ 苦情内容については、受付簿及び解決を図った記録を適切に保管している。
			●	オ 苦情内容に関する検討内容や対応策については、保護者等に必ずフィードバックしている。
			●	カ 苦情内容及び解決結果等は、苦情を表明した保護者等に配慮したうえで、公表している。
			●	キ 苦情相談内容に基づき、保育の質の向上に関わる取組を行っている。

Ⅲ-4 安心・安全な保育の提供

Ⅲ-4-(1) 安心・安全な保育の提供のための組織的な取組が行われている。		自己評価結果	● ×	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)
21	① 安心・安全な保育の提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	●	ア 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順、対応策を示した危機管理マニュアルを職員が理解し、それに基づき実践している。
【判断した理由・特記事項等】 ・安全計画をもとに毎月の避難訓練及び防火訓練、保護者と共に行う引き渡し訓練を実施し、職員間で見出した改善点は即実行に移し安全への意識を高めている。 ・公立保育園の「危機管理マニュアル」の内容について職員周知し、事故や災害等に組織として対応できるようにしている。インシデントやヒヤリハット事案が発生した場合は会議で情報共有を行い改善点を確認し再発防止に努めている。 ・健康安全委員会を中心に救急救命・AED使用方法の確認、チャイルドビジョンでの学習会等子どもの安全を守るための学びの機会を設けている。チャイルドビジョンは保護者にも体験してもらえらるようになった。		a	●	イ 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集を積極的に行い、収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組を行っている。
			●	ウ 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。
			●	エ 事故防止策等の安全確保の実施状況や実効性について、月2回安全点検日を設け、評価・見直しを行っている。

22	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	●	ア	感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制を整備している。
【判断した理由・特記事項等】 ・感染症予防と発生時の拡大予防の為に情報共有や保育体制を整え、調理、保健、用務が連動して動く体制を整えている。職員向けに感染症の拡大予防や嘔吐処理等についての学習会を行い、適切な対応を心掛けている。 ・感染症対策従事者研修会に参加し学びを職員間で共有している。 ・感染症の発生・流行時には、保護者に掲示板で周知を図っている。			●	イ	感染症の予防と発生時の対応マニュアルを職員が理解し、感染症が発生した場合には、適切に対応している。
			●	ウ	担当者等を中心にして、感染症の予防や安全確保に関する学習会を適時開催している。
			●	エ	対応マニュアル等に変更が必要な場合は、迅速に統括課担当者へ連絡している。
			●	オ	感染症の予防策を適切に講じている。
			●	カ	感染症流行時には、保護者への情報提供が適切になされている。
			●	キ	感染症発生時には、保護者への情報提供が適切になされている。
23	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	●	ア	決められている災害時の対応体制に従い、非常時に行動できるよう、適時訓練している。
【判断した理由・特記事項等】 ・防災計画を作成して様々な場面を想定した避難訓練を実施し、職員の対応力が身につくようにしている。出火場所等に応じた2次避難場所を想定し臨機応変に対応ができるようにしている。 ・保護者との引き渡し訓練を年に1回は実施し、子どもの安全な引き渡し方法について確認している。 ・非常時の物品については毎年点検整備を行い、倉庫の中の物品の保管場所を周知、取り出しやすさなども点検している。			●	イ	立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類への対策や、保育を継続するために必要な対策を講じられるよう、適時イメージトレーニングを行っている。(避難訓練の実施)
			●	ウ	子ども、保護者及び職員の安否確認の方法を明確にし、すべての職員が周知している。
			●	エ	食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。
			●	オ	防災計画等を整備し、地元の消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制を整え、訓練を実施している。

Ⅲ-5 子育て支援

Ⅲ-5-(1) 家庭との緊密な連携		自己評価結果	●	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)	
24	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	●	ア	連絡帳等により家庭と日常的に情報交換を行っている。
【判断した理由・特記事項等】 ・送迎時の会話や連絡帳、3歳以上児クラスは毎日のお知らせボードを用いて、保育の様子を知らせている。行事や園外保育などは写真を使用した壁日誌を即日掲示し、具体的な取り組みを知らせ、保育の理解につなげている。			●	イ	保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。
			●	ウ	様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるようにしている。
			●	エ	家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。
			●	オ	家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。
		自己評価結果	●	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)	
25	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	●	ア	日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。
【判断した理由・特記事項等】 ・毎日の送迎時の会話や連絡帳の内容を丁寧に記入する等、誠実に対応することを心掛け保護者との信頼関係を築くことを大切にしている。 ・家庭の状況を把握しクラス担任だけでなく園全体で声を掛け話しやすい雰囲気を作っている。 ・相談内容によっては、必要に応じて統括課や関係課に連絡し、適切な対応が取れる体制がある。			●	イ	保護者が相談する際に、安心して相談できる相手を自由に選べ、個人情報の保護を含め落ち着いた話せる環境に配慮し、相談に応じられる場所・人の体制に努めている。
			●	ウ	保護者の就労等個々の事情に配慮して、相談日程や時間帯など保護者の希望に応じられるよう配慮している。
			●	エ	保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。
			●	オ	相談の内容を適切に記録している。
			●	カ	相談を受けた保育者等が適切に対応できるよう、必要に応じて助言や支援が受けられる体制を構築している。
			●	キ	相談を受けた保育者等が適切に対応できるよう、必要に応じて助言や支援が受けられる体制を構築している。
26	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の未然防止に努めている。	b	●	ア	虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。
【判断した理由・特記事項等】 ・日々の子どもや保護者の様子について把握することを心掛け、早期発見、対応に努めている。気掛かりな様子や虐待等の可能性がある場合は速やかに園内で対応するとともに、こども子育て安心課やすこやか相談所等との情報共有や連携を図っている。 ・初期対応が遅れないように、子どもの不登園時には、家庭へ電話連絡を行いこどもや家庭の様子を確認している。 ・児童虐待防止マニュアルの改訂版(R7年度版)に基づく研修ができていない。早急に職員間で読み合わせ等行い理解に努める。			●	イ	虐待等権利侵害の可能性がある職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議し、対策をとっている。
			●	ウ	虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面への支援を行っている。
			●	エ	職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。
			●	オ	児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。
			●	カ	虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備するとともに、マニュアルに基づく職員研修を実施している。

IV 保育の質の確保

IV-1 保育の質の確保

IV-1-(1) 提供する保育の標準的な実施方法が明文化され、周知している。		自己評価結果	●	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)	
27	① 保育について標準的な実施方法が重要事項説明書に文書化され保育が提供されている。	a	●	ア	保育について標準的な実施方法が適切に重要事項説明書に文書化されている。
【判断した理由・特記事項等】 ・保育について標準的な実施方法が重要事項説明書に記載され、新入児説明や継続児説明会で周知し保育を進めている。 ・子どものプライバシーが守られるように写真掲示等についての意思確認を行い注意をはらっている。			●	イ	保育の標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢を明示してある。
			●	ウ	保育の実施方法について、会議や個別指導等によって職員に周知徹底している。

28	② 保育の標準的な実施方法について、見直す仕組みが確立している。	a	●	ア	実施されている保育内容が、画一的なものとならないよう、検証・見直しを定期的に行い、常に一定の水準・内容を実現している。
【判断した理由・特記事項等】 ・毎月の保育のねらい会議や保育会議、保育研究、園内研究、行事毎の振り返りや見直しを行い、保育の質の高まりに向け実践している。 ・保護者アンケートや行事後の感想や意見等から保育内容に活かす点を検討し反映するようにしている。			●	イ	検証・見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案に基づき、子どもに経験させたい保育内容の変化や時代の保育情勢を踏まえ、保育の質の向上を図る仕組みとなっている。
			●	ウ	検証・見直したことが職員の共通認識のもとに指導計画に反映されている。
IV-1-(2) 適切な保育の振り返りと反省・考察により保育の指導計画が策定されている。		自己評価結果	●	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)	
29	① 保育の振り返りと反省・考察に基づき、指導計画を適切に策定している。	a	●	ア	指導計画策定の責任者と指導者を明確にしている。
【判断した理由・特記事項等】 ・今年度の保育のテーマに沿って園内研究を計画的に実施し、クラスを越えて互いの保育を見合い子どもの内面理解や保育者の関わり、教材研究を含めた環境設定等についての研究を深めている。後半の園内研究は、全職員が様々なクラスの保育を見て、意見を言い合えるように、園内研ウィークを設定した。 ・月週案指導計画や個別指導計画を立て、定期的な振り返りや保育内容の改善等を行っている。			●	イ	アセスメント(保育の振り返り・考察・分析・評価)の手法が確立され、適切に実施している。
			●	ウ	さまざまな職種の関係職員、必要に応じて保育所以外の関係者が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。(保育研究・保育公開・拡大園内研修等)
			●	エ	全体的な計画に基づき、指導計画を策定している。
			●	オ	子どもと保護者等の具体的なニーズ等が、個別の指導計画等に明示している。
			●	カ	保育の計画の策定にあたり、さまざまな職種の関係職員、必要に応じて保育所以外の関係者が参加しての合議(起案・稟議制)、保護者の意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。
			●	キ	指導計画に基づく保育実践について、振り返りや評価を行う仕組みが構築され、機能している。
			●	ク	支援困難ケースへの対応について検討し、積極的且つ適切な保育の提供を行っている。
30	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a	●	ア	指導計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、保護者の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。
【判断した理由・特記事項等】 ・クラスごとに日々の保育の振り返りを行い指導計画に活かし、ねらい会議等で受けた意見はクラス内で共通理解を図っている。 ・定期的な評価・反省をすることで、より保育の充実につながるよう努めている。			●	イ	見直しによって変更した指導計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。
			●	ウ	指導計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。
			●	エ	指導計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、子ども・保護者のニーズ等に対する保育・支援が十分ではない状況等、保育の質の向上に関わる課題等が明確にされている。
IV-1-(3) 保育士の自己評価		自己評価結果	●	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)	
31	① 保育士が主体的に保育実践の振り返りを行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	●	ア	保育士は、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返りを行っている。
【判断した理由・特記事項等】 ・園全体で日頃から保育の実践や子どもとの関わりでの気づきなどを話すことができ、保育の悩みや相談しやすい雰囲気があり、そのことが保育の充実につながっている。 ・自己評価は年に2回行っている。上半期の自身の振り返りを下半期に活かし保育実践の改善や専門性の向上に努めている。			●	イ	保育実践の振り返りにあたって、子どもの姿や活動の結果だけでなく、子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程に留意している。
			●	ウ	保育士個人または多様な保育士集団で、保育実践の振り返りを適宜行っている。
			●	エ	保育実践の振り返りが、互いの学び合いや意識の向上につながっている。
			●	オ	年に一度、「保育士自己評価表」を用いて評価を行い、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。
			●	カ	「保育士自己評価結果」を、保育所全体の保育実践の評価につなげている。
IV-1-(4) 保育の質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		自己評価結果	●	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)	
32	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	●	ア	組織的にPDCAサイクルに基づく保育の質の向上に関する取組を計画的に実施している。
【判断した理由・特記事項等】 ・園全体で保育所評価を行い、園の課題・改善点を見出している。 ・毎月のねらい会議、保育会議、保育の中間・年度終わりの総括などで保育の振り返りを行い、成果・課題を検討し次の実践に活かしている。			●	イ	保育の内容について組織的に評価を行う体制を整備している。
			●	ウ	定められた評価基準のもとについて、年に1回以上保育所自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。
			●	エ	評価結果を分析・検討する場を組織として位置づけ、実行している。
33	② 評価結果に基づき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的に改善に向け取り組んでいる。	a	●	ア	評価結果を分析した結果やそれに基づく課題を文書化している。
【判断した理由・特記事項等】 ・評価結果を明文化し職員間で共有、検討し、今後取り組むべき課題を明らかにして改善に向けて取り組んでいる。			●	イ	職員間で課題の共有化が図られている。
			●	ウ	評価結果から明確となった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。
			●	エ	評価結果に基づく改善の取組を計画的に行っている。
			●	オ	改善策や改善の実施状況について再評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。

IV-2 保育実施記録

IV-2-(1) 保育実施の記録が適切に行われている。		自己評価結果	● ×	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)	
34	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a	●	ア	子どもの発達状況や生活状況等を、大津市立保育園で定めた統一した様式によって把握し記録している。
【判断した理由・特記事項等】 ・子どもに関する保育の実施状況は、定められた様式で記録している。 ・定例会議やチーム会議等、情報共有や検討内容等については、適切な記録により職員全体で共有できるようにしている。			●	イ	個別の指導計画等に基づく保育が実施されていることを記録により確認することができる。
			●	ウ	諸帳簿の記入に関するマニュアルに基づき、職員への指導等を行い、記録する職員によって記録内容や書き方に差異が生じないようにしている。
			●	エ	保育所における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報を的確に届ける仕組みが整備されている。
			●	オ	情報共有を目的とした会議の定期的な開催等の取組を行っている。
35	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	●	ア	個人情報保護条例に基づき、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関して適切に対応している。
【判断した理由・特記事項等】 ・個人情報保護については職員間で周知している。また、個人情報の記録は保育業務支援システムやファイル等で適切に管理している。 ・個人情報の取り扱いについては年度当初に保護者に同意書にて意思を確認している。			●	イ	個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されており、遵守している。
			●	ウ	記録管理の責任者を設置し、適切に対応している。
			●	エ	記録の管理について、職員に対し個人情報保護条例の趣旨理解を図る教育や研修を行い、職員は、個人情報保護条例を理解し、遵守している。
			●	オ	個人情報の取扱いについて、保護者等に説明し、利用する場合は事前に承諾を得ている。

V 地域貢献

V-1 地域の福祉向上のための取組

V-1-(1) 保育所が有する機能を地域に還元している。		自己評価結果	● ×	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)	
36	① 「子育てステーション事業」を実施し、地域の子育て家庭のニーズ把握と必要な支援に努めている。	a	●	ア	保育所のスペースを活用し、地域の乳幼児親子にとって安心・安全な遊び場や交流の場となる環境を提供している。
【判断した理由・特記事項等】 ・毎月のおしゃべりサロン、子育てひろば、子育て講座、園庭開放等を開催し、地域の子育て支援の拠点としての活動を行っている。安心して子育ての相談をされる姿も見られている。 ・膳所学区内のネットワークや福祉ブロックのネットワークで連携し、情報共有や年1回の子育てひろばを共催で行っている。			●	イ	保育所の専門性や特性を活かし、地域の保護者や子ども等の生活に役立つ講演会や研修会等を開催し、地域の子育て家庭へ参加を呼びかけている。
			●	ウ	保育所の専門性や特性を活かした相談支援事業や、地域ニーズに応じて、地域の子育て家庭が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。
			●	エ	実施する事業内容やスケジュール、遊び場情報等について、地域ネットワークを活用して子育て家庭への周知に努めている。
V-1-(2) 地域の福祉ニーズに基づく公益的な事業・活動を行っている。		自己評価結果	● ×	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)	
37	① 民生委員・児童委員と協働して「全戸訪問事業」に取組み、虐待の未然防止に努めている。	a	●	ア	保育士としての専門性を活かし、初めての子育てに悩む母親が抱える育児不安や負担感をキャッチし、継続的に相談に応じるなど、虐待の未然防止に努めている。
【判断した理由・特記事項等】 ・民生委員、児童委員と連携して「全戸訪問事業」を行っている。子どもの虐待防止の一端を担うことを認識し、園の子育て支援事業の情報を提供したり、気軽に育児相談ができるように働きかけたりしている。			●	イ	民生委員・児童委員等と連携し、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努め、支援活動を行っている。
			●	ウ	地域の子育て家庭に対し、地域の保護者や子ども等の生活に役立つ情報やつどいの広場等遊び場情報などの提供に努めている。
38	② 災害発生時には、福祉避難所として、地域住民の福祉のために貢献する体制を構築している。	b	●	ア	職員は、災害時の危険回避行動や避難行動が適切にとれるよう、必要な知識や技術を習得している。
【判断した理由・特記事項等】 ・福祉避難所であることを職員は認識している。業務継続計画書はあるが職員間で詳細の周知が出来ていない。迅速な対応ができるよう共通理解を図る。			●	イ	災害時の地域における福祉避難所としての役割・使命等について職員間で確認がなされている。
			×	ウ	保育所が福祉避難所となった環境下で保育を継続するための対応について職員間で話し合い、対策が講じられている。

【内容評価基準】

A 保育内容 A-1 全体的な計画

A-1-(1) 全体的な計画が編成されている。		自己評価結果	● ×	評価の着眼点(該当する場合は□にチェック)	
39	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の成長発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している。	a	●	ア	全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。
【判断した理由・特記事項等】 ・「大津市の基準となる全体的な計画」に基づいて園の保育を進めている。 ・年度末に園の保育の総括を全職種参加で実施し、次年度に引き継げるようにしている。			●	イ	全体的な計画は、「大津市の基準となる全体的な計画」に基づいて編成している。
			●	ウ	全体的な計画は、子どもの実態や家庭の状況、保護者の意向等を考慮して編成している。
			●	エ	全体的な計画は、子どもの発達過程を考慮して編成している。
			●	オ	全体的な計画は、保育に関わる職員が参画して編成している。
			●	カ	全体的な計画は、「大津市の基準となる全体的な計画」に基づいて編成している。

A-2 環境を通して行う保育

A-2-(1)環境を通して行う養護と教育が一体的に展開している。		自己評価結果	● ×	評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)	
40	①生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	●	ア	室温、湿度、換気、部屋の明るさ、音や声の大きさなどに配慮している。
【判断した理由・特記事項等】 ・施設の老朽化による設備の不具合は統括課や担当課に相談・連絡し、優先順位に従って修繕等を行っている。 ・限られた空間の中で、こどもも保護者も職員も居心地の良さ等を感じられるように用務担当はじめ職員が壁や遊具のペンキ塗りをしたり、園内のいたるところに季節の手作り装飾を施したりして安心して過ごせる環境を整える工夫を行い努力をしている。		a	●	イ	保育所内外の設備・用具や寝具を衛生的に管理している。
			●	ウ	家具や遊具の素材・配置等に工夫をしている。
			●	エ	一人一人の子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。
			●	オ	食事や睡眠のための心地よい生活空間が一人一人の子どもの発達に考慮して確保されている。
			●	カ	手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫をしている。
			41	②一人一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
【判断した理由・特記事項等】 ・子どもの家庭状況や発達、支援の内容について職員間で情報共有し、一人一人に合わせた関わりや配慮した保育を進めている。 ・子ども一人一人の発達段階に応じた離乳食や、除去食、配慮食を家庭と調理担当とともに丁寧に検討し、提供している。 ・子どもの姿や行動から子どもの内面を捉えることを常に意識し、より良い職員の関わりや環境を整えるように努めている。		a	●	イ	子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。
			●	ウ	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとっている。
			●	エ	子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。
			●	オ	子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。
			●	カ	せかす言葉や制止させる言葉を不用意に用いていない。
			42	③子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a
【判断した理由・特記事項等】 ・子どもたちの主体性を育む関わりや環境を意識した保育を進めている。園内研究やねらい会議等で、各年齢のこどもの”主体的な姿”を確かめ合っている。 ・保健担当が専門的な知識を活かしクラス担任と相談しながら、保健指導(健康な過ごし方や自分の体のことを知ること等)を行い、基本的な生活習慣が身につくよう関わっている。		a	●	イ	基本的な生活習慣の習得にあたっては、一人一人の子どもの主体性を尊重し、強制することなく、子どもが自分でやろうとする気持ちを援助している。
			●	ウ	一人一人の子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。
			●	エ	基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。
			43	④子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a
【判断した理由・特記事項等】 ・楽しい、もっとしたいと思えるような魅力的な遊びや体験ができるように工夫している。毎月のねらい会議では前月のねらいに対しての保育の振り返りを行うとともに翌月の遊びや環境がこどもにとって魅力的かどうかなど、保育の重点目標とも照らし合わせて考え、よりよい保育が展開できるよう努めている。 ・地域の方々との交流や園外保育をとらえて社会的なルールや態度が身につけられるようにしている。		a	●	イ	子どもの姿や発達過程を踏まえ生活や遊びが豊かになるように工夫・援助している。
			●	ウ	遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。
			●	エ	戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。
			●	オ	生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。
			●	カ	子どもたちが友だちと協同して活動できるよう発達過程を踏まえた援助をしている。
			●	キ	社会的ルールや態度が身につくよう配慮・援助している。
			●	ク	身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。
			●	ケ	地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。
			●	コ	様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。
			44	⑤0歳児の保育において養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し保育の内容や方法に配慮している。	a
【判断した理由・特記事項等】 ・0.1歳児の混合クラスであるが、それぞれの発達に応じた生活や遊びの環境を工夫している。 ・季節感が味わえる装飾や、発達に応じた遊びを充実させ明るく楽しい雰囲気づくりを大切にしている。		a	●	イ	0歳児が、安心して、保育者等と愛着関係(情緒の安定)が築けるよう配慮している。
			●	ウ	子どもの表情を大切に、応答的に関わっている。
			●	エ	0歳児が、興味・関心を持つことができる生活と遊びが展開されるよう工夫を行っている。
			●	オ	0歳児の発達過程を踏まえ、自ら人やものへの関わりが豊かになるよう、保育を行っている。
			●	カ	0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。

45	⑥ 1・2歳児の保育において養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し保育の内容や方法に配慮している。	a	●	ア	子どもが自分でしようとする気持ちを尊重し、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。
【判断した理由・特記事項等】 ・子どもたちが安心して自分の思いを表せるように一人一人の姿を受け止め関わっている。子どもが自分のペースで生活やあそびに向かえるようにしている。 ・家庭との連絡ノートや口頭で子どもの様子を伝え合い、各家庭の状況や子どもの姿に合わせて保育を進めている。			●	イ	探索活動が十分に行えるような環境を整備している。
			●	ウ	保育者は、子どもが安心して自発的に活動できるように関わっている。
			●	エ	子どもの自我の育ちを受け止め、保育者は自我の育ちに配慮し、適切な関わりをしている。
			●	オ	保育者は、子どもの姿に応じて仲立ちを行い、友だちとの関わりが楽しいものとなるようにしている。
			●	カ	様々な年齢の子どもや、保育者以外のおとなとの関わりを図っている。
			●	キ	一人一人の子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮を行っている。
46	⑦ 3歳以上児の保育において養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し保育の内容や方法に配慮している。	a	●	ア	3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育者等が適切に関わっている。
【判断した理由・特記事項等】 ・一人一人が安心して生活を送れるような環境や関わりを大切にしている。また、子どもが主体的に遊んだり生活したりできるような環境作りに努めている。 ・今年度は保幼小でのかけはしプログラムの作成に着手し、また、幼稚園との交流を持つ中で、保育や環境を見せ合い子どもたちの育ちを伝え合っている。			●	イ	4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育者等が適切に関わっている。
			●	ウ	5歳児の保育に関して、集団の中で一人一人の子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育者等が適切に関わっている。
			●	エ	子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮を行っている。
A-2-(2) 発達に支援を要する子どもの保育が安心・安全に提供されている。		自己評価結果	●	評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)	
		x			
47	① 発達に支援を要する子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	●	ア	建物や設備、安全対策等、個別にも配慮した環境を整備し、誰もが安全に過ごせるようにしている。
【判断した理由・特記事項等】 ・発達支援制度を利用している子どもの個別指導計画を作成し発達支援会議等で計画や課題について検討し、保育の取り組みや子どもを受けとめる体制を整え保育を進めている。指導計画は保護者にも開示し、保護者と共有している。 ・運動会や発表会等の行事前には保護者との個別懇談を行い、育みたい力や大切にしたいことを共有し、理解を得られるようにしている。 ・職員が各々で研修会や学習会に参加し、専門性の向上と学びを保育に活かせるように努めている。 ・支援児が自分の好きなことやしたい遊びが満足いくまで楽しめるようにグループ保育を行っている。個別のねらいを持ち、保育終了後には振り返りを行い次回のグループ保育につなげている。保護者にはグループ保育の様子を写真で知らせこどもの様子を共有している。			●	イ	子どもの状況に応じた保育を実施するため、また、家庭や関係機関と連携するために、個人別指導計画を作成し、クラスの指導計画とも関連づけ、適切に対応している。
			●	ウ	個人別指導計画の内容を職員間で共有し、子どもの状況や成長・発達に応じた関わりや手立て、必要な援助を行っている。
			●	エ	子ども同士の関わり合いや、共感関係、共通経験を通じて育ち合う関係性に留意し、共に成長できるように必要な援助を行っている。
			●	オ	保護者との連携を密にして、保育所での保育内容・方法に配慮している。
			●	カ	発達に支援を要する子どもの保育について、職員間や保護者との間で適宜話し合う機会を持っている。
			●	キ	職員は、発達に支援を要する子どもの保育について、研修等により必要は知識や情報を得ている。
			●	ク	発達に支援を要する子どもの保護者に対し、保護者の意向を把握し、就学に向けて必要な情報を提供したり、相談に応じたり、保護者同士が交流する場を設け、滑らかに就学へ移行するよう支援している。
			●	ケ	療育や医療機関などの専門機関から子どもの状態について、必要に応じ、相談や助言を受けている。
			●	コ	保育所のすべての保護者が、発達に支援を要する子どもの保育に理解をもち、共に育ち合う姿を実際の保育で確かめ合えるための取組を行っている。
A-2-(3) 健康管理		自己評価結果	●	評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)	
		x			
48	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	●	ア	子どもの健康管理に関するマニュアルに基づき、一人一人の子どもの心身の健康状態を把握し、異常な状態を早期に発見できるよう努めている。
【判断した理由・特記事項等】 ・登園時の視診を丁寧に行っている。子どもの健康状態や怪我等について担任、保健担当、園長、代表保育士で共有し、子どもの体調や怪我等の対応を行っている。その後の経過を丁寧に把握し保護者への報告や対応を行っている。 ・感染症等の病気については園全体で情報共有を行い迅速に対策を実施できるようにするとともに保護者にも感染症の流行の兆しを知らせ、家庭でも健康管理に努めてもらえるようにしている。 ・毎月保健だよりを発行し子どもの健康や保育の取り組みについて保護者に発信している。 ・乳幼児突然死症候群について職員間で情報共有し、就眠状況を把握・記録している。			●	イ	子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。
			●	ウ	子どもの保健に関する計画を作成している。
			●	エ	一人一人の子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。
			●	オ	既往症や乳幼児健診、予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。
			●	カ	保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝え、子育ての中で健康管理に必要な情報も提供している。
			●	キ	職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。
			●	ク	保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。
49	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	●	ア	健康診断・歯科健診の結果を記録し、関係職員及び該当する子どもの保護者に周知している。
【判断した理由・特記事項等】 ・健診結果は保護者に報告し、保護者に丁寧な伝達が必要な場合は保健担当が口頭で説明し相談を受けている。結果から必要な場合は受診を勧め子どもの健やかな育ちに反映されるようにしている。 ・子どもたちの体調や怪我等について園医に報告し助言を頂いている。			●	イ	健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育を行っている。
			●	ウ	家庭での健康的な生活習慣に生かされるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。

50	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもに対して 医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	●	ア	アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。
【判断した理由・特記事項等】 ・食物アレルギー対応ガイドブックに基づき、医師の指示を受けて除去食の対応を行っている。 ・毎月の献立について除去食・配慮食会議を保護者とも確認の上で行い、担任、調理担当、保健担当、園長、代表保育士でメニューについて詳細に検討し共有し、検討した献立表を保護者とも共有している。 ・配膳の間違いを防ぐため、器やお盆の色を変える、配膳順序、食後の片付けの仕方などについても職員間で共有し安全に食事ができるようにしている。 ・アレルギーに関する研修を受講し、アレルギーに対する知識を深められるよう努めている。			●	イ	慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。
			●	ウ	保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。
			●	エ	食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。
			●	オ	職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について、研修等により必要な知識や情報を得たり、必要な技術を習得したりして、適切に対応している。
			●	カ	他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。
・食物アレルギーの研修を受け、「アレルギー」について、			●		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
			×		
51	① 食事を楽しむことができるよう工夫している。	a	●	ア	食に関する豊かな経験ができるよう、食育に関する計画を作成し、保育に位置づけて取組を行っている。
【判断した理由・特記事項等】 ・計画的に野菜を栽培し収穫してクッキングをしたり、目の前で調理してもらったりして、食への関心や喜びが膨らむように取り組んでいる。保育の取り組みの様子や子どもの姿を写真を載せた壁日誌で掲示し保護者に伝えている。 ・子どもの年齢や姿に合わせて使いやすい食器やスプーンの大きさ、箸の使用開始時期、食材の切り方や大きさ、盛り付け方等を工夫し配慮している。 ・行事献立の食材をクイズ形式にする、食材・食事展示、毎日の献立食育ボードの活用等、子ども達が友だちや保育者と一緒に食事をすることが楽しいと感じられるような工夫をしている。 ・保護者に食に関するアンケートを取り、家庭での食事の様子や保護者の困り事を知り、園での取り組みや保護者対応に活かしている。			●	イ	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。
			●	ウ	子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。
			●	エ	食器の材質や形など、子どもが食べやすいように配慮している。
			●	オ	個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。
			●	カ	食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。
			●	キ	子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。
			●	ク	子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。
52	② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a	●	ア	一人一人の子どもの発育状況や体調等を考慮した献立・調理を工夫している。
【判断した理由・特記事項等】 ・毎日クラスの喫食状況を調理室と共有している。子どもたちの目の前で調理担当や担任が果物の皮むきや調理をすることで、子どもたちが食に興味をもてるようにしている。 ・行事の由来や食文化についてまた、旬の食材について子ども達に伝えたいことや経験して欲しいことを確認し安全面を考えてできることを取り組んでいる。			●	イ	子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。
			●	ウ	残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。
			●	エ	季節感のある献立となるよう配慮している。
			●	オ	地域の食文化や行事食などを取り入れている。
			●	カ	調理担当が喫食の様子を見たり、子どもたちから食事について話を聞いたり、調理場面を子どもたちに見せたりするなど、子ども達と調理担当との交流機会を設けている。
			●	キ	衛生管理体制を確立し、衛生管理マニュアルに基づき、適切に衛生管理を行っている。
A-2-(5)長時間保育が安心・安全に提供されている。			●		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
			×		
53	① 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	●	ア	一日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。
【判断した理由・特記事項等】 ・長時間保育に関わる短時間保育士が固定して勤務しており、子ども達にとって温かみのある関わりや安心感を得ている。保護者対応においては必要な伝達を行い丁寧に関わり信頼を得ている。 ・子どもの体調や怪我の状況等職員間で詳細に伝え合い、保護者が安心できるようにしている。			●	イ	家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。
			●	ウ	子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。
			●	エ	年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。
			●	オ	保育時間の長い子どもに配慮したあそびの内容・環境に配慮している。
			●	カ	子どもの状況について、職員間の引継ぎを適切に行っている。
			●	キ	担当の保育者と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。

A-3 小学校との連携

A-3-(1)小学校との連携			●		評価の着眼点(該当する場合は口にチェック)
			×		
54	① 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	●	ア	計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育を行っている。(※アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの関係性を理解した保育の展開)
【判断した理由・特記事項等】 ・5歳児が膳所小学校1年生の秋まつりに招待してもらい就学の楽しみや期待を膨らませる機会を持っている。また保育計画の中に就学を見通した保育のねらいや内容を盛り込んで指導計画を立てている。 ・かけはしプログラム会議では保幼小の職員が架け橋期におけるお互いの子どもの育ちを理解し、子どもたち一人一人の主体的・対話的で深い学びが実現できるように意見を出し合っている。 ・保育所児童要録の作成や、保幼小連絡会、小学校から教職員の来園の際などの機会に子どもの姿を詳細に伝え引継ぎを行っている。			●	イ	地域の小学校と連携し、子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会を設けている。
			●	ウ	保護者が、小学校以降の子ども生活について見通しを持てる機会を設けている。
			●	エ	保育者と小学校教員との意見交換や合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。
			●	オ	園長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。